

令和2年度 シラバス

科目名	心理学	講義	(30)時間	後期	第I学科1学年	講師	宮武 麻美
実務経験	心理判定士として20年以上の勤務経験あり						
到達目標	心のはたらきのルールおよび心理学的介入のための基礎知識を学ぶ						
履修上の注意	講義項目についての理解を深めるため履修者による発表の時間を設けることがあります						
成績評価方法	学科試験(70%)・平常点(30%)						
教科書	金敷大之・森田泰介[編著]『図解 教養心理学』ナカニシヤ出版						
参考書	あればその都度紹介します						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	記憶の構造とはたらき	記憶の区分とはたらき、感覚記憶と短期記憶
第2週目	記憶の構造とはたらき	長期記憶、記憶の障害
第3週目	知性と感性	知能、知能検査、知能の発達と障害
第4週目	心の発達と心の危機	心の発達段階と問題、子どもの心の発達
第5週目	心の発達と心の危機	親子関係の問題、中年以降の心理的発達
第6週目	パーソナリティ	パーソナリティの理論、パーソナリティの形成
第7週目	パーソナリティ	パーソナリティの諸相、パーソナリティの測定
第8週目	学びのルール:学習理論	古典的条件づけ、道具的条件づけ
第9週目	学びのルール:学習理論	認知学習、情報処理の自動化
第10週目	感情	情動、感情の機能、ムード、感情の障害
第11週目	動機と覚醒水準	動機づけとは、動機づけの種類
第12週目	動機と覚醒水準	動機間の関係、動機づけと覚醒水準
第13週目	予備日	
第14週目	まとめ(1)	第1週～第13週目の復習
第15週目	まとめ(2)	第1週～第13週目の復習
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	社会福祉概論	講義	(30)時間	前期	第 I 学科1学年	講師	山口 信治
到達目標	Paile fair ・知ることは知識と技術とをかね備えた当為(なすべきこと)の学びを進めていきます						
履修上の注意	学習の支点を理論と実践におき学習をすすめます						
成績評価方法	出席・課題の取り組み(20%)、試験(80%)の総合評価とします						
教科書	系統看護学講座『社会保障・社会福祉』医学書院						
参考書	適宜講義中に紹介します						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	序:現代社会とくらしの問題	第2章参照、現代社会探しと人々のくらしと社会の幸福を考えましょう
第2週目	序:くらしへの問題へのアプローチ	SDGsが掲げる17の目標とくらしを支える社会的仕組みを学びます
第3週目	理解(1)支援の制度	第1章 社会保障制度と社会福祉について学びましょう
第4週目	理解(2)くらしの所得保障	第5、6章 所得保障と公的扶助制度について学びましょう
第5週目	理解(3)くらしと健康	第3、4章 医療保障制度と介護保障について理解を深めます
第6週目	くらしを支援する社会福祉とは、分野とは、サービスとは(1)	第7章[B]:障がい者福祉:準拠枠としての社会福祉と支援システム(体系)について学びましょう
第7週目	くらしを支援する社会福祉とは、分野とは、サービスとは(2)	第7章[A]:高齢者福祉 [C]:児童家庭福祉
第8週目	社会福祉援助論(1)	第8章について学びましょう
第9週目	社会福祉援助論(2)	第8章[B]:個別援助技術(ケースワーク)について学びます
第10週目	社会福祉援助論(3)	第8章[C]:集団援助技術(グループワーク)について学びます
第11週目	社会福祉援助論(4)	第8章[D]①②: 関連援助技術について学びます
第12週目	社会福祉援助論(5)考察・検討	第8章[E]:支援と倫理上の問題について考えてみましょう
第13週目	社会福祉援助論(6)考察・検討	エンパワーメント、アドボカシー、セルフヘルプグループについて一考しましょう
第14週目	社会福祉援助論(7)連携という技術	第8章[F][G][H](地域包括ケアシステム)について学びましょう
第15週目	余滴	
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	コミュニケーション演習	講義 演習	(30)時間	前期	第 I 学科1学年	講 師	久保 けい子
到達目標	社会人としてのビジネスマナーを身に付ける						
履修上の注意	授業前に教科書を準備し着席 遅刻した者は担当教員に理由を述べて着席すること(途中退室同様)						
成績評価方法	授業態度・欠席状況(私語居眠り)減点あり 定期試験 50% 実技試験 50%						
教科書	コミュニケーション実践ガイド第2版 ・基本のビジネスマナー						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	コミュニケーション概論①	コミュニケーションとは 自己紹介
第2週目	コミュニケーション概論②	自己紹介 自己紹介の意義
第3週目	自己概念の理解	自己肯定感診断
第4週目	相手への伝え方	伝える力をチェックする
第5週目	自律した自分になるために	自己管理能力診断とレジリエンス ストレス解消方法
第6週目	会話上手になるために①	リフレーミング技法
第7週目	会話上手になるために①	バリデーション技法
第8週目	社会人としてのビジネスマナー①	株式会社 アオキ 濱平講師による身だしなみ講座(予定)
第9週目	社会人としてのビジネスマナー②	挨拶 実践 「観察実習での挨拶」
第10週目	社会人としてのビジネスマナー③	社会人に必要な意識
第11週目	社会人としてのビジネスマナー④	会社での働き方と仕事の基本
第12週目	社会人としてのビジネスマナー⑤	人付き合いのマナーと来客訪問対応 名刺交換
第13週目	ヒヤリハットと医療事故	ヒヤリハット事例と医療事故と対処法
第14週目	問診情報収集①	医療現場での必要な情報収集の実践①
第15週目	問診情報収集②	医療現場での必要な情報収集の実践②
備考	変更の可能性あり	

令和2年度 シラバス

科目名	科学の基礎	講義	(30)時間	前期	第 I 学科1学年	講 師	西村 正
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	人体運動に必要な基礎知識について理解を深める。						
履修上の注意	私語など他の学生および講義進行の迷惑にならないよう留意すること。						
成績評価方法	小テスト(30%)、学科試験ト(70%)、出席状況(欠席:減点1点、遅刻・早退:減点0.5点)および授業態度により総合評価する。						
教科書	基礎運動学 (医歯薬出版)						
参考書	必要時配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	授業説明	理学療法士にとって人体運動の必要性。講義内容説明
第2週目	生体の構造	運動器(骨格・筋)と神経系について
第3週目	身体運動	身体運動の面と軸 身体に働く力について
第4週目	身体運動	筋活動について
第5週目	身体運動	身体に働く力について (筋力と外力・てこ・人体とてこ・滑車)
第6週目	身体運動	
第7週目	身体運動	
第8週目	姿勢	姿勢と重心 立位姿勢に働く力
第9週目	姿勢	姿勢と重心 立位姿勢に働く力
第10週目	体幹 股関節 膝関節 足関節 の アライメントについて	立位姿勢において、体幹・股関節・膝関節・足関節に働く力
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目	歩行について	歩行の基礎、歩行時における関節・筋活動、歩行における推進力
第15週目	講義まとめ	講義まとめ
備考	上記内容は講義の進行状況などにより変更することがある	

令和2年度 シラバス

科目名	健康科学	講義 演習	(30)時間	前期	第 I 学科1 学年	講 師	臼井 達矢
到達目標	現代社会において、運動不足や食習慣の乱れ、睡眠不足や身体的・精神的ストレスなど様々な健康問題が指摘されており、これらの原因に伴い生活習慣病や精神的な疾患を引き起こすとされている。特に近年では、若年女性や幼年期・学童期における健康に関する諸問題が多く指摘されており、急務に改善しなければいけない社会問題となっている。以上のことから、様々な年代における健康問題や病気の知識、その改善方法を学び、健康の三大要因である「運動」「栄養」「休養」の観点から健康問題について考え、理解することを目標とする。						
履修上の注意	授業はパワーポイントのスライドを用いて行い、その内容を踏まえてワークシートを完成させる。授業にて多くの資料を配布するため、資料をまとめるファイルなどが必要となる。						
成績評価方法	授業内課題(20%)、振り返りシート(20%)、受講状況(10%)、期末テスト(50%)で評価を行う。						
教科書	特になし						
参考書	参考図書については授業にて適宜説明する						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	運動の必要性	子どもの時の運動は将来の健康と大きく関わるか？スキヤモンの発育発達曲線とは？幼児期に刺激させた脳の部位とは？ストレスコーピングと幼少期の運動との関連は？
第2週目	人間と健康①	健康度を高める3大要因とは？健康の定義とヘルスプロモーションの考えとは？健康になるには愛着形成が必要？ミラーニューロンとは？オキシトシンとは？
第3週目	人間と健康②	胎児と母親との健康の関わりとは？母乳の効用とは？喫煙が子どもに及ぼす危険とは？妊娠中の喫煙が胎児や出産に及ぼす影響とは？(DVD視聴)
第4週目	子どもの病気と健康	小児ガンについて、乳幼児突然死症候群(SIDS)とは？小児ガンに関するDVD視聴
第5週目	睡眠と健康①	現代社会と睡眠不足、睡眠不足が及ぼす身体への影響、体内時計と睡眠との関連？
第6週目	睡眠と健康②	睡眠不足と肥満との関連？睡眠の質と健康との関連？睡眠ホルモンメラトニンとは？
第7週目	体温調節機能と健康①	体温調節機能とは？体温を上下させるメカニズムとは？汗の機能とは？
第8週目	体温調節機能と健康②	熱中症とは？熱中症の予防方法とは？
第9週目	体温調節機能と健康③	低体温が及ぼす健康への影響とは？ヒートショックプロテインと健康について
第10週目	免疫と健康①	免疫の働きとは？免疫機能の分類と白血球の作用とは？
第11週目	免疫と健康②	自然免疫と獲得免疫の働きとは？ストレスが及ぼす免疫機能への影響とは？
第12週目	免疫と健康③	免疫機能を高める運動と食事について
第13週目	肥満予防と健康①	肥満の原因とは？肥満とは？肥満の種類とは？
第14週目	肥満予防と健康②	脂肪細胞の働きとは？肥満予防に向けた運動と食事とは？
第15週目	まとめ	前期実施分の振り返り、期末試験対策、後期「運動生理学」に向けて
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	医療倫理	講義	(30)時間	前期	第I学科1学年	講師	金島 理恵
到達目標	社会人・医療人としての倫理観を習得する。						
履修上の注意	グループでの検討・発表・参加態度も成績に反映します。積極的に発表していきましょう。						
成績評価方法	レポート課題(50%)グループ発表(50%)						
教科書	医療倫理学の方法 第3版 医学書院						
参考書	医療倫理学のABC 第4版 メヂカルフレンド社						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション/関連法規	医療倫理とは 守秘義務・個人情報保護
第2週目	患者の権利	インフォームドコンセントとパートナーリズム
第3週目	理学療法倫理について	日本理学療法士協会 倫理規程
第4週目	医療と死	安楽死・尊厳死について
第5週目	感染症と医療倫理	ペストについて
第6週目	感染症と医療倫理	ハンセン病について
第7週目	ケーススタディ	優生学(ハンセン病)
第8週目	ケーススタディ	癌の告知
第9週目	ケーススタディ	安楽死・尊厳死について
第10週目	ケーススタディ	延命治療について 胃瘻造設など
第11週目	ケーススタディ	医療ミスについて
第12週目	ケーススタディ	クローン技術について
第13週目	ケーススタディ	セクシュアリティについて
第14週目	ケーススタディ	ハラスメントについて
第15週目	まとめ	
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	医学用語	講義	(30)時間	前期	第 I 学科1学年	講師	森 輝
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	リハビリテーションに関する用語の意味と、主要な英単語を想起できるようになる						
履修上の注意	英単語を暗記するだけでなく用語自体の意味を理解すること						
成績評価方法	小テスト30%、期末テスト70%						
教科書	リハビリテーション英語の基本用語と表現						
参考書	配布資料						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	医学用語(医学英語)を学習する意義、授業の進め方、小テストの説明
第2週目	姿勢・運動学用語、関連職種等	肢位・体位・姿勢・関節可動域・動作・歩行(P.2-6)、リハビリテーションの領域・職種・対象者・制度、組織・施設、リスクマネジメント(P.35-42)
第3週目	人体各部の名称と機能	・頭頸部、背部と脊椎、胸部、腹部・骨盤部(P.114-135) ・上肢、下肢、組織用語、生理学用語(P.136-153)
第4週目	人体各部の名称と機能	小テスト
第5週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害1	症状・所見、筋骨格系・循環器系(P.44-63)
第6週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害1	小テスト
第7週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害2	脳神経系の疾患・障害、感覚器官、呼吸器系、消化器系、腎・尿路系(P.64-86)
第8週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害2	小テスト
第9週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害3	生殖器系の疾患・障害、免疫系、内分泌・栄養・代謝疾患、造血系疾患(P.87-100)
第10週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害3	小テスト
第11週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害4	先天性・遺伝性、心因性・精神疾患・障害、感染症(P.100-112)
第12週目	症状・所見、各領域別の疾患・障害4	小テスト
第13週目	検査・測定・評価、診断・治療等	検査・測定・評価、診断・治療、義肢・装具、福祉機器・用具(P.7-34)
第14週目	検査・測定・評価、診断・治療等	小テスト
第15週目	復習	テスト対策
備考	特記事項なし	

令和2年度 シラバス

科目名	解剖学 I	講義	(30)時間	前期	第 I 学科1 学年	講 師	安部 みき子
到達目標	医学の基礎知識である解剖学用語の理解を深める。運動器系は骨学、関節・靭帯学と筋学で構成され、個々の知識を得るとともに相互関係を把握する。さらに、筋の支配神経や末梢の脈管系との関係も把握すること。						
履修上の注意	解剖学は医学の基礎であり、知識量は膨大である。そのため日々の勉強が重要であり、特に予習は重要である。講義前には教科書を熟読しておくこと。						
成績評価方法	筆記試験の成績による。合格には総合して、60%以上の成績が必要である。						
教科書	森優/他『分担解剖学』1 金原出版、寺田春水/他『骨学実習の手びき』南江堂						
参考書	ネッター/著『ネッター解剖学図譜』丸善、坂井建雄他/監訳『プロメテウス』解剖学総論/運動器系 医学書院、伊藤隆/著『解剖学講義』南山堂						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	解剖学総論	解剖学の総論
第2週目	運動器総論 1	骨学および関節・靭帯学の総論
第3週目	運動器総論 2	筋学および運動器に関係する末梢神経系の総論
第4週目	体幹 1	体幹の骨学
第5週目	体幹 2	体幹の骨学(つづき)と関節・靭帯学
第6週目	体幹 3	体幹の筋学
第7週目	体幹 4	体幹の筋学
第8週目	上肢 1	上肢の骨学
第9週目	上肢 2	上肢の骨学(つづき)と関節・靭帯学
第10週目	上肢 3	上肢の関節・靭帯学(つづき)
第11週目	上肢 4	上肢の筋学
第12週目	上肢 5	上肢の筋学
第13週目	下肢 1	下肢の骨学
第14週目	下肢 2	下肢の骨学(つづき)と関節・靭帯学
第15週目	下肢 3	下肢の関節・靭帯学(つづき)
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	解剖学 I	講義	(10)時間	後期	第 I 学科1学年	講 師	安部 みき子
到達目標	医学の基礎知識である解剖学の中でも、理学療法に重要な運動器系の理解を深める。運動器系は骨学、関節靭帯学と筋学で構成されており、個々の知識を得るとともに筋の支配神経や脈管系との関係も理解し、人体の基礎知識を習得する						
履修上の注意	解剖学は医学用語の習得から始まるため、日々の勉学が重要である。特に予習をし、講義や実習の前には教科書や参考書を熟読しておくこと。						
成績評価方法	記述試験による評価。合格は60点以上						
教科書	森優、他「分担解剖学」I 金原出版、寺田春水、他「骨学実習の手引き」南江堂						
参考書	ネッター著「ネッター解剖学図譜」丸善、坂井建雄、他「プロメテウス」解剖学総論/運動器系 医学書院、伊藤隆著「解剖学講義」南山堂						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	下肢4	下肢の筋学1
第2週目	下肢5	下肢の筋学2
第3週目	頭部1	頭部の骨学1
第4週目	頭部2	頭部の骨学2
第5週目	頭部3	頭部の骨学3
第6週目		
第7週目		
第8週目		
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	解剖学 I	講義	(20)時間	前期	第 I 学科1学年	講 師	金田 研司
到達目標	人体の正常構造を、機能との関連において、体系的に理解する						
履修上の注意	単に名前や知識の記憶にこだわることなく、なぜそのような構造になっているのか、どのような意義があるのかを理解して下さい。						
成績評価方法	学期末試験(筆記・〇×の二択式)						
教科書	解剖学アトラス I ~ III (文光堂)						
参考書	なし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目		
第2週目		
第3週目		
第4週目		
第5週目		
第6週目		
第7週目		
第8週目		
第9週目		
第10週目		
第11週目	総論 1	1. 細胞の構造 2. 軟骨 3. 骨
第12週目	総論 2	1. 筋 2. 神経
第13週目	運動器 1	脊柱の構造と運動
第14週目	運動器 2	上肢の構造と運動
第15週目	運動器 3	下肢の構造と運動
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	解剖学Ⅱ	講義	(60)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講師	金田 研司
到達目標	人体のしくみを機能と関連させて理解する						
履修上の注意	単なる暗記におわることなく、自分の頭で考え、理解するよう努める						
成績評価方法	学期末の筆記試験						
教科書	解剖学アトラスⅠ～Ⅲ(文光堂)						
参考書	なし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	脳-1	大脳の区分、大脳皮質
第2週目	脳-2	錐体路と錐体外路
第3週目	脳-3	小脳と基底核
第4週目	脳-4	脳幹、大脳辺縁系、視床
第5週目	脳-5	脊髄、髄膜、脳の血管
第6週目	脳神経-1	嗅覚、視覚
第7週目	脳神経-2	眼球運動、表情、そしゃく
第8週目	脳神経-3	聴覚、平衡覚
第9週目	脳神経-4	構音とえん下
第10週目	内臓-1	心臓、血管
第11週目	内臓-2	呼吸器(肺と呼吸運動)
第12週目	内臓-3	泌尿器(腎、膀胱)
第13週目	内臓-4	消火器-1(消化管)
第14週目	内臓-5	消火器-2(肝胆膵)
第15週目	内臓-6	内分泌器官、血液、リンパ系
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	生理学 I	講義	(60)時間	前期	第 I 学科 1 学年	講 師	小倉 基裕
到達目標	リハビリテーションとして必要な人体の微細な構造まで含めた臓器、身体の生理機能(働き)、特に運動機能とその調節について必要な科学的知識を身につける。						
履修上の注意	生理学を理解するためには、解剖学の「からだの構造」、生理学の「からだのしくみ」の知識を統合させる必要がある。丸暗記でなく、「なぜそうなのか」を「考える姿勢」を身につける。国家試験への対策も含めてより深く生理学の知識を深める。専門科目へと進み、疾患を理解し、その機能を回復させるうえでも必須である。						
成績評価方法	本試験結果(80%)を主たる評価基準とするが、レポート提出(10%)、実施した小テスト(10%)も加味する。						
教科書	生理学テキスト(文光堂)、副教科書:はやわかり生理学ハンドブック(ナツメ社)						
参考書	《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》生理学(医学書院)、標準生理学(医学書院)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	生理学入門	細胞の内部環境、ホメオスタシスの維持生理機能の調節メカニズム 生理機能の調節メカニズム
第2週目	細胞の基礎(活動電位・イオンチャンネル)	神経細胞(ニューロン)と筋細胞 細胞膜の電気現象 膜電位とは 静止電位と活動電位 閾値とは 神経細胞のイオンチャンネルの機能について学ぶ
第3週目	骨格筋の収縮	骨格筋の微細構造 骨格筋収縮と興奮収縮連関について学ぶ
第4週目	神経系(1)	神経細胞(ニューロン)はシナプスを介して隣接神経細胞および骨格筋に情報を伝達する
第5週目	神経系(2)	神経系の一つである生命維持機能を制御する自律神経径について学ぶ
第6週目	神経系(3)	運動や姿勢に関わるに関する運動系に関連する脊髄、脳幹、小脳について学ぶ
第7週目	神経系(4)	運動系に関わる骨格筋へと指令される大脳皮質から脊髄の運動ニューロンにどのように伝達されるかを学ぶ
第8週目	感覚(1)	感覚の種類 体性感覚概説 体性感覚の皮膚感覚と深部感覚について学ぶ
第9週目	感覚(2)	感覚末梢の受容器、中枢神経系への伝導路 感覚に関連する大脳皮質について
第10週目	感覚(3)	外界からの化学物質を化学受容器で受容する味覚と嗅覚について学ぶ
第11週目	感覚(4)	音に対する聴覚、頭の回転の速度・重力の加速度受容する(意識)などの中枢神経系の大脳皮質の構造と機能について学ぶ
第12週目	脳の統合機能(1)	意思、思考、言語、記憶(学習)、行動、情動、睡眠と覚醒(意識)などの中枢神経系の大脳皮質の構造と機能について学ぶ
第13週目	脳の統合機能(2)	ヒトで特に発達した前頭連合野と側頭野と大脳辺縁系(行動・学習・記憶)について学ぶ
第14週目	脳の統合機能(3)	行動や情動、学習、記憶に関連する視床、視床下部、扁桃体、上行性覚醒に関わる脳幹について学ぶ
第15週目	脳の統合機能(4)	大脳皮質の感覚野の感覚情報、運動野骨格筋運動の統合機能 脳の損傷がもたらす身体的機能障害について学ぶ 前期学習のまとめ
備考	あらかじめ教科書をよく読んで予習して講義に臨み、教科書、ノートをもとに毎回復習を行い、知識の積み重ねを可能にしておくこと。各項目の節目において小テストを実施し、知識の整理を行う。	

令和2年度 シラバス

科目名	生理学Ⅱ	講義	(60)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講師	小倉 基裕
到達目標	前期に続き正常な生体の機能について、各器官独自の機能の発現と調節機序に基づいて理解させることを目指す。それら緒機関相互の協調的な働きにより初めて全体としての人体の働きが発現することを理解させる。そのために生体現象の機序をできるだけわかりやすく総合的に理解させる。また、将来、疑問や問題点が生じたときに、自ら参考資料を参照し、自分自身で考える力を備えさせる。						
履修上の注意	生理学を理解するためには、解剖学の「からだの構造」、生理学の「からだのしくみ」の知識を統合させる必要がある。丸暗記ではなく、「なぜそうなるのか」を「考える姿勢」を身につける。国家試験への対策を含めてより深く生理学の知識を深める。専門科目へと進み、疾患を理解し、その機能を回復させるうえでも必須である。						
成績評価方法	本試験結果を主たる評価基準とするが、授業への出席・受講態度・実施した小テストも加味する。						
教科書	シンプル生理学(南江堂)、副教科書:はやわかり生理学ハンドブック(ナツメ社)						
参考書	《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》生理学(医学書院)、標準生理学(医学書院)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	内分泌系の機能1	ホルモンの一般的性質(視床下部で産生されるホルモン、下垂体の機能、甲状腺の機能)
第2週目	内分泌系の機能2	内分泌の機能(ホルモンと骨・副腎の機能・血糖の調節・膵臓のホルモン・生殖機能)
第3週目	内分泌系の機能3栄養と代謝1	内分泌機能(続き)代謝(はじめに)
第4週目	栄養と代謝2	代謝、中間代謝、エネルギー代謝
第5週目	消化器系の機能1	消化管の運動とその調節
第6週目	消化器系の機能2	消化・吸収のしくみ、肝臓と胆導系
第7週目	血液の生理1	血液の機能、血液の組成
第8週目	血液の生理2	免疫機能、血液型、血液凝固
第9週目	循環器系の機能1	循環器の概要:心臓の構造、血管、リンパ管
第10週目	循環器系の機能2	循環の調節のしくみ、局所循環、脳脊髄液循環
第11週目	呼吸の生理1	呼吸とは、呼吸器の構造、呼吸機能、換気
第12週目	呼吸の生理2	ガス交換とガス分圧、呼吸を調節するしくみ、呼吸の異常
第13週目	尿の生成と排泄1	腎臓の機能的構造、糸球体ろ過、尿細管における再吸収
第14週目	尿の生成と排泄2	尿細管のはたらき、尿の成分、排尿のしくみ
第15週目	体温とその調節	体液区分と水バランス、体液の恒常性、体温、体温の生理的変動
備考	あらかじめ教科書をよく読んで予習して講義に臨み、教科書、ノートをもとに毎回復習を行い、知識の積み重ねを可能にしておくこと。各項目の節目において小テストを実施し、知識の整理を行う。	

令和2年度 シラバス

科目名	運動生理学	講義	(30)時間	後期	第I学科1学年	講師	臼井 達矢
到達目標	近年、若年層においては、運動を全く実施せずに運動不足や体力低下を伴い、小児生活習慣病に陥る者と、クラブチームに所属し、幼少期から積極的に競技スポーツに取り組む者の2極化傾向にある。いずれの者においても、正しい運動指導、処方が必要であり、特に前者においては、健康のための正しい運動の知識や科学的根拠に基づいた運動指導、後者においても、予防医学の観点から支援し、科学的根拠に基づいたトレーニングプログラムの処方が望まれる。そこで、本講義では、運動中の生体反応、生理学的応答を呼吸循環器系、免疫系、神経系、筋骨格系、内分泌系から学び、運動生理学、健康科学の最近の状況(海外、国内論文引用)を踏まえて、最新の知見を把握し、理解することを目的とする。						
履修上の注意	授業はパワーポイントのスライドを用いて行い、その内容を踏まえてワークシートを完成させる。授業にて多くの資料を配布するため、資料をまとめるファイルなどが必要となる。						
成績評価方法	授業内課題(30%)、振り返りシート(30%)、受講状況(10%)、期末テスト(30%)で評価を行う。						
教科書	特になし						
参考書	参考図書については授業にて適宜説明する						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	運動の必要性	健康寿命延伸に向けての運動の必要性、今後の健康増進や介護予防の展開
第2週目	運動を筋肉①	筋の役割と機能、筋線維の特性、筋収縮様式
第3週目	運動を筋肉②	筋疲労と乳酸、ロコモティブシンドロームと運動
第4週目	運動と循環①	心臓の構造と機能、血管の役割と血管内皮機能
第5週目	運動と循環②	血管の役割、心筋とポンプ能力、心拍出量と運動
第6週目	運動と呼吸①	肺の構造と機能、口腔および気道の構造と機能
第7週目	運動と呼吸②	呼吸筋の働き、酸素摂取量と運動、最大酸素摂取量と運動
第8週目	運動と神経系①	脳機能と構造、大脳の役割、小脳と運動
第9週目	運動と神経系②	間脳と運動、末梢神経と運動
第10週目	運動と骨①	骨吸収と骨形成、ホルモンと骨成長
第11週目	運動と骨②	運動の骨強度への貢献、骨粗しょう症予防と運動
第12週目	運動と代謝①	脂質代謝と運動、肥満予防と運動
第13週目	運動と代謝②	糖代謝と運動、糖尿病と運動
第14週目	運動と内分泌	運動により分泌される内分泌系、運動による効用
第15週目	まとめ	後期実施分の振り返り、期末試験対策
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	運動学 I	講義	(60)時間	後期	第 I 学科1学年	講師	西村 正
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	基礎的な人体構造、機能の理解。それを自分なりに表出できるように。						
履修上の注意	理学療法学科学生としての自覚を持って臨むこと。						
成績評価方法	学科試験(中間試験40%・定期試験50%)・課題提出(10%)・出席状況(欠課・遅刻・早退:減点1点)						
教科書	基礎運動学<第6版 補訂>(医歯薬出版)						
参考書	副本:エッセンシャルキネシオロジー 都度配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週	運動学の基礎知識	関節の構造と機能・神経系
第2週	上肢帯と肩関節の運動	上肢帯の構造と機能 肩関節の構造と機能 肘関節の構造と機能 手関節の構造と機能 上肢帯から上肢まとめテスト
第3週	上肢帯と肩関節の運動	
第4週	肘関節と前腕の運動	
第5週)	手関節と手の運動	
第6週	上肢帯から上肢まとめ	
第7週	下肢帯の運動	下肢帯の構造と機能 股関節の構造と機能 膝関節の構造と機能 足関節、足部の構造と機能
第8週	下肢帯の運動	
第9週	下肢帯の運動	
第10週	下肢帯の運動	
第11週	下肢帯の運動	
第12週	下肢帯から下肢まとめ	基本的な下肢の運動(実技)
第13週	頸部/体幹の運動	頸部/体幹の運動について
第14週)	頸部/体幹の運動	頸部/体幹の運動について
第15週	姿勢について	姿勢について
備考	実技は指定ジャージで受講(装飾品は外すこと)。骨模型活用	

令和2年度 シラバス

科目名	運動学 II	講義	(30)時間	後期	第 I 学科1学年	講師	西村 正
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	正常歩行動作や基本的動作の基本的特性を、解剖学、運動学、運動力学の観点から理解する。						
履修上の注意	理学療法学科学生としての自覚を持って臨むこと。						
成績評価方法	学科試験(80%)・課題提出(20%)・出席状況(欠課・遅刻・早退:減点1点)						
教科書	基礎運動学<第6版 補訂>(医歯薬出版) 観察による歩行分析(医学書院)						
参考書	都度配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週	オリエンテーション・運動学とは	身体運動の面と軸 身体に働く力について てこの原理について
第2週	生体の構造・機能	運動器の構造と機能 神経系
第3週	姿勢	姿勢と重心 立位姿勢に働く力
第4週	体幹 股関節 膝関節 足関節 の アライメントについて	立位姿勢において、体幹・股関節・膝関節・足関節に働く外力と内力の 関係について
第5週	体幹 股関節 膝関節 足関節 の アライメントについて	
第6週	体幹 股関節 膝関節 足関節 の アライメントについて	
第7週	歩行について	歩行の基礎 歩行時における各関節の動き、筋活動について 歩行における推進力 階段歩行での関節の動き、筋活動について
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週	起居動作、立ち上がり、着座動 作について	各動作の基礎 各動作における各関節の動きや筋活動について 階段歩行での関節の動き、筋活動について
第13週		
第14週		
第15週	講義まとめ	講義まとめ
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	人間発達学	講義	(30)時間	前期	第 I 学科1学年	講 師	出口 修平
到達目標	正常発達を学ぶことで、解剖学、運動学との関連性及び知識の再確認を行う						
履修上の注意	欠席をなるべくしない。私語はせず、活発なディスカッションを行う						
成績評価方法	本試験100%						
教科書	イラストでわかる正常発達						
参考書	適宜紹介						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	自己紹介
第2週目	正常発達の原則	発達の順序や規則性について
第3週目	姿勢反射	原始反射や姿勢制御機構について
第4週目	立ち直り反応って何？	立ち直り反応とバランス反応の違い
第5週目	1ヶ月～3ヶ月	定額に必要な要素
第6週目	3ヶ月～5ヶ月	寝返りや、座位姿勢について
第7週目	5ヶ月～6ヶ月	色々な寝返りの仕方
第8週目	6ヶ月～8ヶ月	座位保持に必要な能力
第9週目	8～12ヶ月	立位歩行の獲得に必要な事
第10週目	小児期に見られる問題	発達障がいについて
第11週目	代表的な小児疾患	疾患についての理解
第12週目	小児実習について	実際の臨床場面の様子や流れについて
第13週目	正常発達を動画で見ていこう	DVD視聴
第14週目	"	"
第15週目	試験について	質問タイム
備考	成績には関係ありませんが、途中講義理解を確認するため小テストの実施を考えています	

令和2年度 シラバス

科目名	病理学概論	講義	(30)時間	前期	第I学科1学年	講師	田麗
実務経験	医師として9年以上の実務経験あり						
到達目標	①病気の発生する原因を把握すること ②病気の発生するメカニズムを理解すること ③それぞれの病気の症状に対して、その症状が現れた理由を把握すること						
履修上の注意	授業の出席						
成績評価方法	筆記試験100%						
教科書	学校の指定の教科書						
参考書	無						

週数	項目	授業内容
第1週目	病理概論	病因論 先天性疾患、遺伝病①
第2週目	病理概論	先天性疾患、遺伝病②
第3週目	病理概論	細胞・組織傷害
第4週目	病理概論	物質代謝障害 修復と再生
第5週目	病理概論	循環障害
第6週目	病理概論	炎症と感染症
第7週目	病理概論	免疫と免疫異常
第8週目	病理概論	腫瘍
第9週目	病理概論	循環器系
第10週目	病理概論	呼吸器系
第11週目	各論	消化器系
第12週目	各論	造血器系
第13週目	各論	泌尿器系 生殖器系
第14週目	各論	運動器及び軟部組織系 内分泌系
第15週目	各論	脳・神経系 皮膚・感覚器系
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	リハビリテーション学 I	演習	(30)時間	後期	第 I 学科1 学年	講 師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	リハビリテーションの概略を知る						
履修上の注意	出席すること						
成績評価方法	筆記試験						
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 診断と治療社						
参考書	適宜講義内で紹介						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション リハビリテーションとは？	リハビリテーションの領域
第2週目	リハビリテーションの理念	、リハビリテーション発展の歴史、ノーマライゼーション、自立運動、 疾病分類、障害分類
第3週目	医療・保険・福祉とリハビリテーション	医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり
第4週目	リハビリテーションマインド	障害を診る心をもつ、障害者の社会復帰・社会参加を目指す
第5週目	チーム医療	様々な医療職種の役割を知る、チームを大事にする
第6週目	廃用症候群	廃用症候群とは、二次的合併症としての廃用症候群、廃用症候群の予防
第7週目	機能評価の重要性	診断・評価の進め方、機能障害・能力低下の評価の重要性
第8週目	医療社会福祉と法律	医療者に関する規律、医療保険制度、介護保険制度
第9週目	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム	地域リハビリテーション、地域包括ケアシステム
第10週目	障害別リハビリテーションの実 際①	関節拘縮と関節可動域訓練、筋力低下と筋力増強訓練、運動麻痺と ニューロリハビリテーション、運動学習
第11週目	障害別リハビリテーションの実 際②	異常歩行、失語症、失行・失認、高次脳機能障害
第12週目	障害別リハビリテーションの実 際③	摂食嚥下障害、排泄障害、痙縮、老化と介護予防
第13週目	疾患別リハビリテーション①	中枢性疾患、神経筋疾患、
第14週目	疾患別リハビリテーション②	整形外科疾患、呼吸器、循環器、悪性腫瘍
第15週目	まとめ	
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	保健医療福祉制度論	講義	(30)時間	前期	第 I 学科1 学年	講 師	吉田 弘利
到達目標	わが国の社会保障制度の理解						
履修上の注意	パワーポイントを用いて講義を行います。						
成績評価方法	本試験(60%)+[提出物、小テスト](40%)			欠席回数×-10点			
教科書	なし (プリント配布)						
参考書	配布資料						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	社会保障	総論 社会保障制度の仕組み
第2週目	医療保険 I	社会保険(協会管掌健康保険)について
第3週目	医療保険 II	国民保険(国民健康保険)について
第4週目	後期高齢者医療	長寿医療制度(老人医療制度から後期高齢者医療制度へ)
第5週目	介護保険制度 I	①制度の成り立ち
第6週目	介護保険制度 II	②制度の内容
第7週目	労働者保険 I	労働災害保険について
第8週目	労働者保険 II	雇用保険について
第9週目	障害者総合支援法 I	①制度の変遷
第10週目	障害者総合支援法 II	②制度の内容
第11週目	年金保険 I	①総論 年金とは
第12週目	年金保険 II	②国民年金
第13週目	年金保険 III	③厚生年金
第14週目	まとめ I	①
第15週目	まとめ II	②
備考	講義の進捗により、変更いたします。	

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法学概論	演習	(30)時間	前期	第 I 学科1 学年	講 師	音頭 善勝
実務経験	理学療法士として20年以上の実務経験あり						
到達目標	理学療法士の役割・仕事を知るとともに理学療法の実際を理解する。						
履修上の注意	生涯続けていく仕事について理解するために不明な点は遠慮なく質問する。						
成績評価方法	筆記試験						
教科書	理学療法概論テキスト 南江堂						
参考書	その都度紹介する。						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	理学療法士になるには	今までそしてこれから
第2週目	理学療法とは何か	歴史、定義、リハビリテーションと理学療法
第3週目	理学療法の役割	医療、保健、福祉の中で
第4週目	理学療法の実際	理学療法の流れ(過程)
第5週目	理学療法士に求められるもの	使命、倫理
第6週目	理学療法士における臨床思考	臨床推論、コミュニケーション
第7週目	理学療法士の活躍の場	医療、保健、福祉、教育、研究、スポーツ
第8週目	理学療法士の職能	日本理学療法士協会、世界理学療法士連盟
第9週目	理学療法士に関連する法律	理学療法士及び作業療法士法
第10週目	理学療法教育	卒前教育、卒後教育
第11週目	フィールドワーク	臨床見学と理学療法教育、QOL,
第12週目	理学療法研究	EBPT
第13週目	理学療法士に必要な管理・運営	理学療法と報酬
第14週目	理学療法士に必要な管理・運営	リスク管理
第15週目	まとめ	
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	病態運動学	演習	(60)時間	後期	第I学科1学年	講師	森輝
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	体表から骨や筋の位置、形を立体的にイメージでき実際に触れることができる。						
履修上の注意	服装や注意事項を厳守し、真摯に取り組むこと						
成績評価方法	授業態度、実技(触察)試験、筆記試験						
教科書	骨格筋の形と触察法						
参考書	分担解剖学1、日本人体解剖学等解剖学書						

週数	項目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	授業の進め方、理学療法士と筋の関わり
第2週目	肩甲骨に付着する筋	実技
第3週目	股関節に作用する筋①	前回の復習、実技
第4週目	股関節に作用する筋②	前回までの復習、実技
第5週目	前腕の筋	前回までの復習、実技
第6週目	下腿の筋	前回までの復習、実技
第7週目	前胸部・腹部の筋	前回までの復習、実技
第8週目	体幹背部の筋	前回までの復習、実技
第9週目	骨盤帯の筋	前回までの復習、実技
第10週目	足関節に作用する筋	前回までの復習、実技
第11週目	肩関節に作用する筋	前回までの復習、実技
第12週目	母指球・小指球の筋	前回までの復習、実技
第13週目	実技テスト	
第14週目	中手筋、咬筋、側頭筋	実技テスト復習、実技
第15週目	まとめ	
備考		

令和2年度 前期 シラバス

科目名	理学療法基礎演習 I (接遇)	演習	(30)時間	前期	第 I 学科1学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	医療従事者としての接遇マナーを習得する。						
履修上の注意	実技試験では服装および身だしなみも評価されます。ノートPC持参すること(PCあれば)						
成績評価方法	課題提出物・小テスト・実技試験・中間試験・定期試験・講義参加態度						
教科書	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド 医学書院						
参考書	『社会人のための基本のビジネスマナー』ナツメ社						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	自己紹介・エゴグラム
第2週目	ビジネス会話のマナー	尊敬語・謙譲語の使い方
第3週目	電話応対について	電話の受け方・電話のかけ方
第4週目	文書作成	パソコンを使用しての文書作成
第5週目	メール作成	パソコンを使用してのメール文書作成
第6週目	手紙の書き方	手紙・葉書の文例 手紙作成
第7週目	礼状の書き方	実習先へのお礼状の書き方 宛名の書き方
第8週目	感想文の書き方	実習感想文の書き方(原稿用紙)
第9週目	中間試験	第2～7週目講義内容より出題する
第10週目	パワーポイント作成	自己PR(自己紹介含む)作成
第11週目	パワーポイント作成	病院・施設紹介
第12週目	パワーポイント発表	個人発表
第13週目	パワーポイント発表	個人発表
第14週目	医療面接	患者様との信頼関係構築(自己紹介・情報収集)
第15週目	実技試験	医療面接
備考	上記はあくまで予定(目安)であり、内容については変更になる可能性がある。	

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法学基礎演習Ⅱ	演習	(30)時間	前期	第I学科1学年	講師	専任教員
実務経験	音頭教員:理学療法士として20年以上の実務経験あり 西村教員:理学療法士として10年以上の実務経験あり 金島教員:理学療法士として7年以上の実務経験あり 吉田教員:理学療法士として10年以上の実務経験あり 門脇教員:理学療法士として8年以上の実務経験あり 中野教員:理学療法士として11年以上の実務経験あり 久保教員:理学療法士として12年以上の実務経験あり 森教員:理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	体験や実技を通して、理学療法分野における基礎知識を習得する。						
履修上の注意	体験や実技中心の講義です。積極的に参加しましょう。						
成績評価方法	出席日数・講義態度・レポート提出・テストで成績評価します。						
教科書	配付資料で対応						
参考書	配布資料で対応						

週数	項目	授業内容
第1週目	人体の構造(金島)	骨の名称について
第2週目	人体の構造(金島)	骨の名称について
第3週目	人体の構造(金島)	筋肉について
第4週目	人体の構造(金島)	筋肉について
第5週目	人体の構造(金島)	骨の名称と骨指標(模型を使って)
第6週目	人体の構造(金島)	骨の名称と骨指標(模型を使って)
第7週目	骨模型を使って(西村先生)	骨について
第8週目	骨模型を使って(音頭先生)	筋について
第9週目	バイタルチェック(中野先生)	血圧・脈拍測定
第10週目	バイタルチェック(久保先生)	血圧・脈拍測定
第11週目	触診(門脇先生)	骨の触診・筋の触診
第12週目	車椅子(吉田先生)	車椅子について
第13週目	補装具(金島)	杖、装具について
第14週目	障害体験(金島)	予定 視覚障害・聴覚障害・片麻痺体験
第15週目	呼吸器(森先生)	呼吸器の解剖と生理、聴診
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法基礎演習Ⅲ	演習	(30)時間	後期	第I学科1学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	見学実習にむけ理学療法士としての言動を学ぶ。国家試験問題に慣れる。						
履修上の注意	出席すること						
成績評価方法	出席、授業態度、テスト						
教科書	なし						
参考書	適宜講義内で紹介						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	模試対策	問題を解く(生理学)生体の構造
第2週目	模試対策	問題を解く(生理学)細胞生理
第3週目	模試対策	問題を解く(生理学)細胞における物質輸送
第4週目	模試対策	問題を解く(生理学)細胞膜の興奮
第5週目	模試対策	問題を解く(生理学)筋収縮のメカニズム
第6週目	模試対策	問題を解く(生理学)筋収縮の型
第7週目	模試対策	問題を解く(生理学)筋線維の特徴
第8週目	模試対策	問題を解く(生理学)神経細胞
第9週目	模試対策	問題を解く(生理学)神経の興奮
第10週目	模試対策	問題を解く(生理学)シナプス伝達
第11週目	模試対策	問題を解く(生理学)神経筋の伝達
第12週目	実習での取り組み方	実技
第13週目	実習での取り組み方	実技
第14週目	実習での取り組み方	実技
第15週目	実習での取り組み方	実技
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法学基礎演習Ⅳ	演習	(30)時間	後期	第I学科1学年	講師	甲斐 理武
到達目標	人体の構造を、系統的小よび局所的視点から説明できる。						
履修上の注意	予習・復習を心がけること。						
成績評価方法	レポートを予定。						
教科書	寺田・藤田 解剖実習の手びき(南山堂)						
参考書	Rohen・横地・Lütjen-Drecoll 解剖学カラーアトラス(医学書院)						

週数	項目	授業内容
第1週目	解剖実習概論	解剖実習の実際について
第2週目	くびと体幹の浅層	頸部と体幹の浅層の筋、関節、靭帯、神経、脈管について
第3週目	上肢	上肢の筋、関節、靭帯、神経、脈管について
第4週目	体壁	体壁の筋、関節、靭帯、神経、脈管について
第5週目	胸腔・腹腔	胸腔・腹腔の臓器、神経、脈管について
第6週目	下肢	下肢の筋、関節、靭帯、神経、脈管について
第7週目	骨盤	骨盤内蔵と神経、脈管について
第8週目	あたま	頭部の筋、関節、靭帯、神経、脈管について
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学 I	演習	(30)時間	後期	第 I 学科1 学年	講 師	門脇 辰弥
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり						
到達目標	各関節の可動域測定と形態測定を学ぶ						
履修上の注意	ジャージを着用すること、装飾品は外すこと、測定器具を持参すること						
成績評価方法	出席点、授業態度、実技試験						
教科書	理学療法評価学						
参考書	なし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	形態測定・関節可動域とは
第2週目	形態測定	四肢長の測定
第3週目	関節可動域測定	周径の測定
第4週目	関節可動域測定	肩関節
第5週目	関節可動域測定	肩関節
第6週目	関節可動域測定	肘・前腕・手関節
第7週目	関節可動域測定	肘・前腕・手関節
第8週目	関節可動域測定	股関節
第9週目	関節可動域測定	股関節
第10週目	関節可動域測定	膝・足・足部
第11週目	関節可動域測定	膝・足・足部
第12週目	関節可動域測定	肩甲帯・頸部・胸腰部
第13週目	関節可動域測定	肩甲帯・頸部・胸腰部
第14週目	形態測定・関節可動域測定	実技練習
第15週目	形態測定・関節可動域測定	実技練習
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅱ	演習	(30)時間	後期	第Ⅰ学科1学年	講師	久保 けい子
実務経験	理学療法士として12年以上の実務経験あり						
到達目標	主要なMMTの手技が正しく行える。目的を理解し代償動作を抑制できる。						
履修上の注意	上下肢、体幹筋の解剖(起始停止、作用等)を予習・復習しておくこと。						
成績評価方法	定期試験100%						
教科書	MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御 メジカルビュー社						
参考書	脳神経支配筋に関する資料を追加する予定						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	MMTの基礎知識	筋力の定義、判定基準、抑止テスト、代償運動等
第2週目	肩関節	肩関節: 屈曲、伸展、外転、内転
第3週目	肩関節	肩関節: 内旋、外旋、水平内転、水平外転
第4週目	肩甲骨	肩甲骨: 外転と上方回旋、挙上、内転、下制と内転、内転と下方回旋
第5週目	肘関節、前腕	肘関節: 屈曲、伸展 前腕: 回内、回外
第6週目	手関節、手指・母指	手関節: 掌屈、底屈 手指・母指: 屈曲伸展(MP,DIP,PIP,IP)
第7週目	股関節	股関節: 屈曲、伸展、外転、内転、内旋、外旋
第8週目	膝関節、足関節、足趾	膝関節: 屈曲、伸展、足関節: 底屈、背屈、内がえし、外がえし 足趾: 屈曲、伸展
第9週目	体幹、頭頸部	体幹: 屈曲、伸展、回旋 頭頸部: 屈曲、伸展、回旋
第10週目	脳神経支配筋	外眼筋や顔面筋等
第11週目	実技	実技及びオリエンテーション
第12週目	実技	実技及びオリエンテーション
第13週目	実技	実技及びオリエンテーション
第14週目	実技	実技及びオリエンテーション
第15週目	実技	実技及びオリエンテーション
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義のはじめに、対象となる筋の解剖学的特徴を確認する(口頭もしくは紙面上)。 ・講義の進捗状況に応じて適宜変更する。 	

令和2年度 シラバス

科目名	物理療法学	演習	(30)時間	後期	第I学科1学年	講師	吉田 弘利
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	物理療法の理解・知識の習得及び実践						
履修上の注意	実技の時はジャージの下に短パン・Tシャツで受講。(実技がある為、出席点を重視します。)						
成績評価方法	出席・レポート点(50%)+定期試験(50%) [欠席1回につき-10点とし、提出物が未提出の場合も-10点とする。]						
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習						
参考書	指定なし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	物理療法の基礎	物理療法の基礎、炎症、痛み
第2週目	温熱療法 1-3	ホットパック、パラフィン、赤外線、極超短波、超音波
第3週目	光線療法	赤外線、紫外線、レーザー
第4週目	寒冷療法	クリッカー
第5週目	水治療法	渦流浴
第6週目	超音波療法	超音波
第7週目	電気刺激療法 1-2	経皮的電気刺激、干渉波、微弱電流刺激
第8週目	電気刺激療法 3-4	神経筋電気刺激、ロシアンカレント、機能的電気刺激、バイオフィードバック
第9週目	牽引療法	牽引療法
第10週目	マッサージ療法	マッサージ療法
第11週目	リスク管理	リスク管理
第12週目	実技	
第13週目	実技	
第14週目	実技	
第15週目	実技	
備考	状況により変更します。	